

## 2 野 菜

項 目	作 業 内 容																										
<p>(1) 冬春露地野菜の防寒対策と管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○冬春露地野菜の防寒対策と管理</li> <li>○施設野菜の温度管理</li> </ul> <p>気温の低下に合わせて、軟弱野菜等の露地野菜では早めにべたがけやトンネル被覆を行い、防寒に努める。なお、被覆資材を利用する場合はトンネル内の温・湿度管理に留意し、徒長や病害の発生を防ぐ。</p> <p>表1 主なべたがけ資材の特性</p> <table border="1" data-bbox="400 763 1394 1066"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>適品名</th> <th>用途</th> <th>遮光率</th> <th>耐用年数</th> <th>特徴・留意点等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">長繊維不織布</td> <td>パオパオ</td> <td rowspan="2">保温・防霜 防虫</td> <td>10~15</td> <td rowspan="2">1~2年</td> <td rowspan="2">安価。通気性が低い。結露、軟弱化に注意。</td> </tr> <tr> <td>パスライト</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>割繊維不織布</td> <td>タフベル</td> <td>保温・防霜 除湿</td> <td>10~15</td> <td>5~7年</td> <td>やや高価。耐候性が高い。</td> </tr> <tr> <td>寒冷紗</td> <td>-</td> <td>保温・防霜 除湿</td> <td>15~90</td> <td>7~10年</td> <td>通気性が高い。いろいろな遮光率の資材がある。</td> </tr> </tbody> </table> <p>冬季はほ場が乾きにくいため、排水不良のほ場では外周に溝を掘るなど排水対策に努め、病害発生を防止する。</p> <p>生育中のかん水はほとんど必要ないが、晴天が続くようであれば暖かい日の午前10時~午後2時にかん水する。</p> <p>ア キャベツ</p> <p>生育期間中、肥料切れさせないようにチッ素成分で3~4kg/10aの追肥を適宜行う。また、結球始めに土壌を乾燥させると小玉になりやすいので、晴天が続くようであればかん水を行う。</p> <p>イ レタス</p> <p>生育適温は15~20℃で、5℃以下ではほとんど生育しない。平均気温が10℃以下になれば、防寒対策としてトンネルを被覆する。しかし、トンネル被覆が遅れるとレタス球の肥大が悪くなるので、早めに準備しておく(今月初旬を目途とする)。なお、被覆後のトンネル内が高温になると、変形球や充実度の悪い球となるので、30℃以上にならないよう温度管理する。</p>	種類	適品名	用途	遮光率	耐用年数	特徴・留意点等	長繊維不織布	パオパオ	保温・防霜 防虫	10~15	1~2年	安価。通気性が低い。結露、軟弱化に注意。	パスライト	10	割繊維不織布	タフベル	保温・防霜 除湿	10~15	5~7年	やや高価。耐候性が高い。	寒冷紗	-	保温・防霜 除湿	15~90	7~10年	通気性が高い。いろいろな遮光率の資材がある。
種類	適品名	用途	遮光率	耐用年数	特徴・留意点等																						
長繊維不織布	パオパオ	保温・防霜 防虫	10~15	1~2年	安価。通気性が低い。結露、軟弱化に注意。																						
	パスライト		10																								
割繊維不織布	タフベル	保温・防霜 除湿	10~15	5~7年	やや高価。耐候性が高い。																						
寒冷紗	-	保温・防霜 除湿	15~90	7~10年	通気性が高い。いろいろな遮光率の資材がある。																						

項 目	作 業 内 容
	<p>ウ ブロccoliリー 頂花蕾どり専用種と頂花蕾・側花蕾どり兼用種があるが、兼用種では追肥とかん水が重要となる。頂花蕾を収穫した後、10a 当たりチッ素成分で4～5 kgの追肥を施用する。</p> <p>エ たまねぎ 浅根性であるが、滞水しやすいほ場では春先に白色疫病やべと病の発生が助長されるので、排水対策を十分に講じる。年内に根を十分張らせて、健全な状態で越冬させる。</p> <p>オ そらまめ 定植後1か月余り経過すると、主枝が大きく生長し、分枝の発生が認められてくる。分枝の発生や生長を促すため、主枝の本葉が5～6枚の頃に3～4節で摘心する（写真1）。併せて株元に土入れし、株のぐらつきやマルチのバタつきをなくすことで株を安定させる。また、年内のモザイク病発生株は適宜除去する。</p> <div data-bbox="531 1099 1337 1373" data-label="Image"> </div> <p>写真1 そらまめ主枝の摘心（左：摘心前、右：摘心後）</p>
<p>(2) 施設野菜の 温度管理</p>	<p>越冬型の施設果菜類では、今月から本格的な加温の時期となる。ハウスの隙間や破損部の補修、内張りを張るなどして、保温性を高める。品目の特性に応じて温度管理し、収量・品質の向上に努める。</p> <p>ア 変温管理 トマト、きゅうり（写真2）等の果菜類では、夕方から前夜</p> <div data-bbox="876 1496 1385 1877" data-label="Image"> </div> <p>写真2 きゅうりの促成栽培</p>

項 目	作 業 内 容																																																		
	<p>半（～24時）は光合成産物の転流を促進するため、やや高めの温度で管理する。後夜半（0～6時）は、呼吸による消耗を抑えるため、低めの温度とする「変温管理」が有効で、燃料の節減にも効果的である。</p> <p>なお、曇りや雨の日は日照が少なく、光合成産物量も少ないため、前夜半の温度を晴天日よりやや低めに管理する。</p> <p>早朝加温は、日の出とともに光合成がスムーズに行える環境を整えるため実施する。しかし、早朝は最も温度の低い時間帯であり、設定温度を高くすると燃料の消費量も多くなる。</p> <p>イ 品目に応じた温度管理の徹底</p> <p>燃料費の節減を優先して、設定温度を作物の生育適温以下にすると、草勢の低下や収穫の遅延等によって収量・品質が著しく低下し、経営収支が逆に悪化した事例がみられる。このため、栽培品目に応じた適切な温度管理によって、収量・品質を落とすことのないようにする（表2）。</p> <p>表2 品目別変温管理の実施例</p> <p>①トマト (°C)</p> <table border="1" data-bbox="507 1189 1345 1301"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (～24時)</th> <th>後夜半 (0～6時)</th> <th>明け方 (6時～)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>温度</td> <td>25～27</td> <td>23～25</td> <td>10～12</td> <td>8～10</td> <td>10～12</td> </tr> </tbody> </table> <p>②きゅうり (°C)</p> <table border="1" data-bbox="507 1386 1345 1543"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (～24時)</th> <th>後夜半 (0～6時)</th> <th>明け方 (6時～)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>晴天温度</td> <td>25～28</td> <td>23～25</td> <td>14～16</td> <td>11～12</td> <td>16～18</td> </tr> <tr> <td>曇天温度</td> <td>20</td> <td>16～17</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table> <p>③いちご (°C)</p> <table border="1" data-bbox="507 1628 1345 1830"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>午前</th> <th>午後</th> <th>前夜半 (～24時)</th> <th>後夜半 (0～6時)</th> <th>明け方 (6時～)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土耕温度</td> <td>25～27</td> <td>20～25</td> <td>8</td> <td>5～6</td> <td>10～12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">高設温度</td> <td>25～27</td> <td>20～23</td> <td rowspan="2">8</td> <td rowspan="2">8</td> <td rowspan="2">10～12</td> </tr> <tr> <td>[28]</td> <td>[28]</td> </tr> </tbody> </table> <p>[ ]は炭酸ガス施用時</p>	時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)	温度	25～27	23～25	10～12	8～10	10～12	時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)	晴天温度	25～28	23～25	14～16	11～12	16～18	曇天温度	20	16～17	13	11	16	時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)	土耕温度	25～27	20～25	8	5～6	10～12	高設温度	25～27	20～23	8	8	10～12	[28]	[28]
時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)																																														
温度	25～27	23～25	10～12	8～10	10～12																																														
時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)																																														
晴天温度	25～28	23～25	14～16	11～12	16～18																																														
曇天温度	20	16～17	13	11	16																																														
時間	午前	午後	前夜半 (～24時)	後夜半 (0～6時)	明け方 (6時～)																																														
土耕温度	25～27	20～25	8	5～6	10～12																																														
高設温度	25～27	20～23	8	8	10～12																																														
	[28]	[28]																																																	

(作成 農林水産研究所)